

■ 社友会公ネットワーキング委員会では、活動の一環として毎年秋に被災地を訪ね、被害の状況や復興への取り組みを『報告』して支援や連携を呼びかけています。五回目となる今年には長野県「栄村」を訪問しました。東日本大震災の甚大な被害の陰であり注目されませんが、二〇一一年三月二日未明に発生した長野県北部地震も前日の巨大地震に誘発されたものと言われていました。

### 台風二一号の迫るなか

台風二一号が近づき強い雨が降りしきるなか、関越自動車道を塩沢石打ICで降り、山道を一路十二峠へ。翌日は通行止めとなった国道三五三号から国道一一七号を走り、千曲川が信濃川と名を変える県境近くの橋を越えると「栄村」です。川は渦巻く濁流でした。

雨も小降りになってきたので、村の中心地、「日本最高積雪地点」の標柱の立つ飯山線森宮野原駅前にある

「震災復興祈念館

《絆》を先ず訪ねる

ことにし、震災視察のための栄村役場訪問は翌日にまわしました。「震災祈念館《絆》」には長野県北部地震による被災状況と栄村の人たちの逞しい復興への取り組みが記録されていました。



### 村が揺れた

展示室に入ると、次のような掲示が目飛び込んできました。



(地震発生時刻で止まった時計)

「二メートル以上の雪に覆われた村は、まだ暗闇に包まれていた。突然、かつて経験したことのない大きな音、激しい揺れが村を襲った。崩れ落ちた家、大きくひび割れた道、雪崩や土砂崩れ。明るくなるにしたがつて人々が目にしたものは、驚くべき光景だった。こうして平穩だった村の人々の生活は一変した。」

当時の栄村は世帯数九二七戸、人口三三〇人。まだ暗い午前三時五九分、栄村を震度六強の地震が襲いました。さらに、追い打ちをかけるように二回の震度六弱の余震が発生。栄村の鉄道・道路・住居・水道等の生活インフラを崩壊させました。

地震による被害状況です。人的被害については幸い軽傷が十名と軽微でしたが、厳しい避難生活の中で三名の方が命を落とされました。建物被害は住家が六九四棟、非住家が一〇四八棟と甚大で、その他水道・道路



(多数の家屋が損壊した横倉地区)

等のライフラインや学校・診療所・福祉施設等の公共施設にも被害が出ました。また、雪崩・土砂崩れ・橋梁損傷・路面損傷など二六四カ所の道路の損壊が発生し、山間部にある栄村に集落の孤立という深刻な問題をもた



(亀裂が生じた村道)

りました。併せて、路盤が崩れたJR飯山線や路線バスも運休となりました。被害総額は約百七十億円とされています。

## 八割が避難生活

震度六強の本震後立て続けに震度六弱の余震が二回起こり、その後も頻繁に揺れが続いたため、家屋倒壊の恐れや生活インフラが壊滅したことから、午前十一時に秋山地区を除く村全域に避難指示が出され、余震が頻発するなかで、消防団の協力のもとに役場など七カ所の避難所に分散して避難がなされました。

避難者数は地震発生当日に一五一九人、翌日には一七八七人に上り、十日後に避難指示が解除されるまで千五百人以上という状況が続きました。

生活インフラの復旧や仮設住宅の建設が進捗するに伴って避難者数は減少し、三月末二百八人、四月末四十八人、五月末三人となり、六月十九日には解消されました。

その間、トイレの確保や支援助物資の配布等数々の問題が発生するなか、プライバシーが保てない不自由な避難所での共同生活を余儀なくされました。



(避難所風景)

## 全国からの支援

震災発生後暫くして、村の復興まで見据え、村民の心に夢と希望が湧くボランティア組織を目指して「栄村支援機構『結い』」が結成されました。「助けてあげる」ではなく「村の仲間としてお手伝いする」意識から、ボランティアを「結いのしよ」と呼んで支援活動を展開しました。「結い」を通じて支援を行った方は、延べ四四六二名に上りました。

また、全国から十億二千万円の義援金が寄せられたほか、寄付金も二億五千万円に上りました。食糧品・飲料品・衣類・毛布などの日用品の支援物資も九百七十四件寄せられ、避難生活や早期の生活再建に大きく貢献しました。

## 震災をのりこえて

栄村の復興努力や全国からの支援により、震災発生から二年後には、住宅・道路・農地・公共施設等の九割程度の復旧がなされました。さらに三年の期間をかけて復興計画が推進されましたが、この未曾有の災害を後世に伝え風化させないために、私共が訪問した「震災

復興祈念館『絆』」の建設や「栄村震災記録集『絆』」の刊行、あるいは震災視察の受け入れ等を併せ行っています。また、被災した水稲農地に作付けした蕎麦を復興への願いを込めて「福幸そば」として商品化し、福島市への支援や全国からの支援へのお礼としても活用しています。

## お訪ねください！

翌日も風雨が強く、予定していた私たちの震災視察は、役場が台風二一号による被災対応で多忙なため中止となり、僅かばかりの寄付金をお渡しして失礼しました。

長野県最北部の栄村。ここも他の僻地と同様に高齢化と過疎化が同時進行しています。しかし、豊かな水資源による美味しい米づくりが行われ、多くの温泉や苗場山と鳥兜山に挟まれた秋山郷、あるいはさかえ倶楽部スキー場など豊かな観光資源に恵まれています。近くには有名な野沢温泉もあります。皆さまも是非一度お訪ねください。



(栄村震災記録集「絆」)

